

六波羅蜜寺

漫々トシテ苦海潤シ 幸ニ津梁ノ存スル有リ 彼岸何ゾ到リ難カラシ 膽礼ニ尊ニ属ス・釈體阿

いにしへ当寺の本尊観音地藏同座の事、熊野の謡曲に見えたり。又同謡に北斗の星の曇なきと有は、是より東の方二三町計に、高燈籠を柱に掛けて北辰を祭り、城南淀河廻船の目当に毎夜常燈をかがやかせしが、応仁の兵火に亡び、其燈籠の埋れたりしを、一年金森宗和侯上京の時、寺僧に乞て東武へ携かへり奇物とし弄び給ふが、今も芝の邸中に遺れりとぞ